

SDGsの考え方 トランプで学んで



市川さん(中)の指導を受けながら「バイオミミクリー・トランプ」で遊ぶ児童たち＝豊田市の市木町で

愛教大学生 豊田・市木小に寄贈

愛知教育大(刈谷市)の学生団体「SAGA(サーガ)」のメンバー6人が15日、豊田市市木町の市木小学校を訪れ、国連の持続可能な開発目標(SDGs)に関する学習教材を寄贈した。同日は6年生対象に出前授業を開き、同教材の使い方を披露した。

サーガは2020年4月に設立。SDGsの考え方

を伝える教材を開発したり、県内の小中学校で出前授業を開いたりしている。

市木小に寄贈した教材は「バイオミミクリー・トランプ」と呼ばれるトランプカード。バイオミミクリーは自然界や生命の仕組みを模倣して、技術やシステムを開発することで、自然界の英知を持続可能な製品づく

くりには生かす取り組みとして注目されている。

トランプは13枚のペアが2組あり、裏返したトランプをめくりながら、同じ番号のカードをそろえて遊ぶ。同じ番号が書かれた2枚のカードには、それぞれ動植物と製品の写真を印刷。鳥のところがくちばしを参考に500系新幹線の先頭車両が造られたことなど、生き物と技術の関係性に遊びながら気づいてもらう狙いだ。

学生たちは遊び方を説明しながら、生物の多様性を子どもたちに解説した。サーガ代表で4年の市川佳依さん(23)は「生き物と技術のつながりを知ってもらい、生態系の保護に関心を持ってもらえたら」と話した。同教材は豊田市内の小学校全75校に2セットずつ配布する予定。

(大谷津元)